

千葉縣
共進會

實業家案内

特 69

312



千葉縣共進會
實業家案內

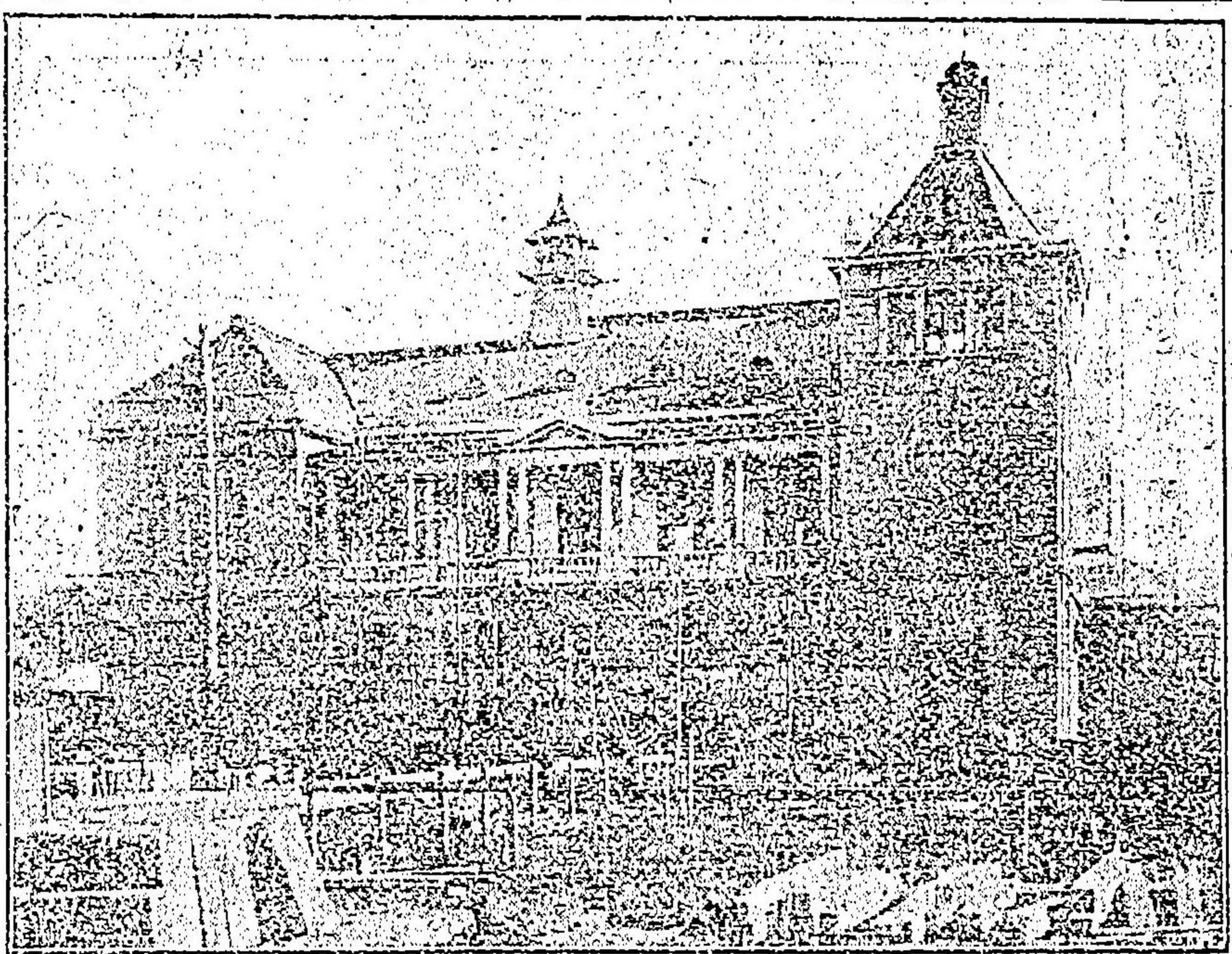
(一)

●共進會案内

はしつかき

明治四十四年春五月千葉縣共進會を千葉町に開催す。春陽老ひつれと未だ暑からず。櫻花は散り去れど、今を全盛と咲き亂る、卵の花あり。詩味を解せぬものさへ、尙詩情を惱ます情趣自ら湧く時なり陽氣よ浮かれ、花に戯むる者は獨り遍々たる蝶のみにあらず。万物浮立つ今日此頃、共進會の人出や其の數幾万人を數ふ程あらむ。共進會は百聞一見の智識を啓發し老幼を問はず、智識を博進するに是非一度は觀覽して、夫々思付の智識を養ふに適當の場所あり、併ながら万態千様の幾百万の出陳を蒐むる會場あれば豫め其以前に陳列品や、觀覽の順序を承知し置かされば、不便もあり。折角のもの

を見通すともある可く、斯くてはと明なれば旅宿も混雜すべく、折觀覽人の爲め遺憾此上なかるべし
魚遊覽かてらの遊情を損じ、長途



又千葉町の如き狹隘なる土地に日して眞を窺ふ能はざる不便あるも
々幾万人の多き觀覽人の入込むこ
一片の小冊子共進會の爲め觀覽者

の旅情も慰められず、らんも圖られず。本書は斯る不便を除却し、會場に入らざる前既に概況を普く知らしむるの指針とせり。若し共進會の次手成田、香取等の靈地に精進の氣を養ひ、敬神家護の安全を禱らん人の爲めには、成田、宗吾香取等の案内も此内にあり。其他千葉町を始め縣下の名所舊跡、著名の實業家等の案内ありて、座ながら其地を訪ひ、其物に遇ふの思ある可し。只編輯匆卒の間に成り、序列態をなさず錯雜と

の指針とあれば憾みなし。
明治四十四年五月 著者謹識

●共進會場案内

會場は他府縣のものに較ぶると土地の狹隘なるより隨て會場軒を併へて連接し居り觀覽者には至極便利の場所なり

◎新築縣廳舎

宏壯雄大の建築物は全町の裝飾物と言つて可い位町内に毅然として大を誇るもの即ち廳舎なるが此所には地方資料を陳列し並に教育品の展覽會場となる共進會開會當日より臨時縣會も此處に開かれる來十七日御來縣の御豫定なる 皇太子殿下には廳舎御一泊の御豫定なりと承はる

◎第一號館

即ち本館で舊物産陳列館今の教育會圖書館の内部を改造して充用せられたのである茲に陳列さるる出品物は階下左右兩側に俵米約六百点と左側の周圍に統計圖表を並べられ後方陳列場には本縣産出の織物として有名なる銚子縮、上總木綿の長生武山産を主とし所謂地酒、醬油、罐詰、菓子等主として工業品が秩序正しく美術的意匠に依つて陳列される酒は各郡より二三点宛の出品を見ざるはなく醬

油は本縣の誇りとする野田、銚子各醸造家の精製された逸品を孰れも堪詰めとし参考品として陳列棚を飾る外各郡よりの出品も數十点



松の衣羽

ある、罐詰は殆んど全部海産物を以つて占め従つて漁業の盛なる房州、夷隅、海上が其の出品の大半を領し菓子は千葉以外八日市場、銚子あたりからも出て居り澱粉は蘇我、高神の

◎第一號館

本館は公會堂の向に新築された度量衡器検査蠶病豫防兩事務所及び附屬として其後方なる衛生試驗場を含んだのが其れで度量衡には蔬菜果實類五六百点、果實としては柑橘が主要の出品である蠶病豫防事務所には葉煙草、菘類、繭、蠶具の總數三千点以上で葉煙草の出品は從來東葛飾郡のみに過ぎなかつたが近年香取に之れを栽培して頗る好結果を得た、繭及び蠶具は山武、匝瑳兩郡の出品が上位を占めて居る、試驗所内に陳列さるるは農事試驗場園藝專門學校、縣農會の参考品のみで他に館内中央部に蔬菜其の他を以て室内庭園を設け種々の趣向を凝してある

◎第二號館

二號館に北隣して新築された巡查教習所及び附屬寄宿舎の二階建家屋が三號館にてある即ち教習所本館階上には水産普通出品物なる鱈節、鹽辛、煮干鰯、乾魚、鹽魚、貝せんべい、石花菜(てん草)乾海苔等二千餘点に達し階下には水産試驗場及び各地漁業組合各種團體出品が飾られる又寄宿舎階上は農産加工品雜工作の梅干、切干、建具、策、傘など八百点内外を陳列してある階下は農事講習所(生糸眞綿肥料煉乳牛酪)水産講習所水産學校の参考品である

◎第四號館

本館は目下公會堂北側の新築平家の演武場で茲の陳列品は縣外の出品に係る参考品のびである其の北隣の林業館は四十坪内外あつて木炭(三百点)木材(五十点)林業に關する各種出品で満ちて居る

◎第五號館

本館は農具館にて一般農具と農事用諸器械が陳列されてある而して其の器械に對しては、石油發動機を据付け廻轉作用の模様を實地に見せてあるから農業者には必定有益な刺戟となるものか有るから地方人は是非一覽し給へ

◎演藝館

縣公會堂の東方宗胤寺との間に新築されたるものと千葉藝妓の新曲千葉音頭を踊る所と會期中追通して演すると云ふ

●會開中の諸會合

共進會開會中には諸種の會合がある其の内重なるものの場所と日割を示せば左の左し

- ▲臨時縣會 五月五日召集當日開會議案調査の爲め一時休會
- ▲縣廳舎開廳式 五月五日午前十時
- ▲共進會開會式 同時刻
- ▲地方資料並教育品展覽會開會式 同時刻内務大臣は前二式場及本式場に臨場

▲園遊會 縣廳主催の會合終了後には必ず園遊會あり

- ▲町村長會議 五月六日縣公會堂
- ▲招魂祭 同日より七日まで千葉神社境内に於て
- ▲赤十字支部職員總會 同七日午前十時同社に於て開會當日は 閉院總裁宮殿下御台臨
- ▲小學校長會議 五月八日公會堂
- ▲醫學專門學校紀念式 同日
- ▲故長尾博士銅像除幕式 同日
- ▲産業組合大會 同日公會堂
- ▲縣教育總會 同九日
- ▲縣教育功績者表彰式 同日
- ▲全國教育大會 同十日
- ▲全國神職大會 同十一日
- ▲關東實業大會 同十二日、十三日午後一時より園遊會六時より夜會豫定
- ▲馬匹共進會開會式 同
- ▲馬匹共進會舉行式 同午後六時宴會開催
- ▲競馬會 同十二、三日の二日間
- ▲全國農事大會 同十四日公會堂に於て伏見宮殿下御台臨
- ▲殉難警察官招魂祭 千葉招魂祭と同時
- ▲武術大會 同七日
- ▲煙火大會 開期中逆日
- ▲共進會褒賞與式 同十五日午前十時午後一

時より園遊會 藝妓手踊 開會中

●千葉町案内

▲千葉町

千葉町と言ふ語源は確説がない、其内最も真に近いものは、千葉が往昔、華(華をちに謎つて千と言ふ)原であつて、華の葉密集して居た所より、華葉、即ち千葉に成つたと言ふ、恐らく夫等より來りたる言葉ならんとは、推想家の認めて居る所である、併し異説紛々歸着する所なし、偕千葉町の名所と言つても入目を驚かし、視界を樂ましむる様の結構壯麗を極めた場所も舊跡もない、斯る事は何れの名所舊址一律で洵に已を得ぬ、歴史上花と謳われて居る名所舊址も敢て千葉と異ならない、隨て千葉も其例に洩れぬと合點せば今更其の殺風景に驚くこともない、夫れは扱攔き千葉町を採勝した二三を紹介して觀覽者の便宜に供せば左の各所を千葉名所で盡て居ると言ふも過言にあらず

- ▲其一、千葉野 千葉野は現千葉停車場附近一帶の地にて千葉氏の盛時に調兵練をした所である
- ▲其二、猪の鼻臺 千葉町の東南隅老松亭々幾千年の昔を語り天

空高く中央に聳へ松梢猿攀して底く民家を撫
づるか如き高臺の突端を猪鼻臺とす千葉氏累
代の居城にて千葉家が未だ千葉氏を名乗らさ
る以前千葉家の祖先千葉介平常重の築く所、
康正元年兵焚に罹り鳥有に歸す、後數代改修
せんと圖りたるも荒廢爲すなきを見て中止し
次て今日に至れり。猪の鼻の秋月は千葉八景
の一に屬す。

▲其三、池田阪

猪の鼻臺の南方今の中學校に達する阪上是な
り。猪の鼻城の搦手なり康正元年城の兵焚に
罹るや阪上(今は畑地となる)には倉庫ありて
兵糧を貯ふ、言ひ傳ふ倉米化石して今に尙掘
出さるご其状恰も小粒の砂利の如しと、蓋五
百餘年間土中ありたるごとて或は然らむ
千葉七不思議の一に數へらる。

▲其四、御茶水

本町通より來り大和橋を渡り直に左折して突
當りたる所に地藏尊を安置せる所、猪鼻臺に
上るには是非此所を通る道路の分岐點にあり
源頼朝兵を擧げ伊豆に破れ千葉氏に依るや、
猪鼻臺に請して款待す當時此井水を飲料水に
供す因て此名あり

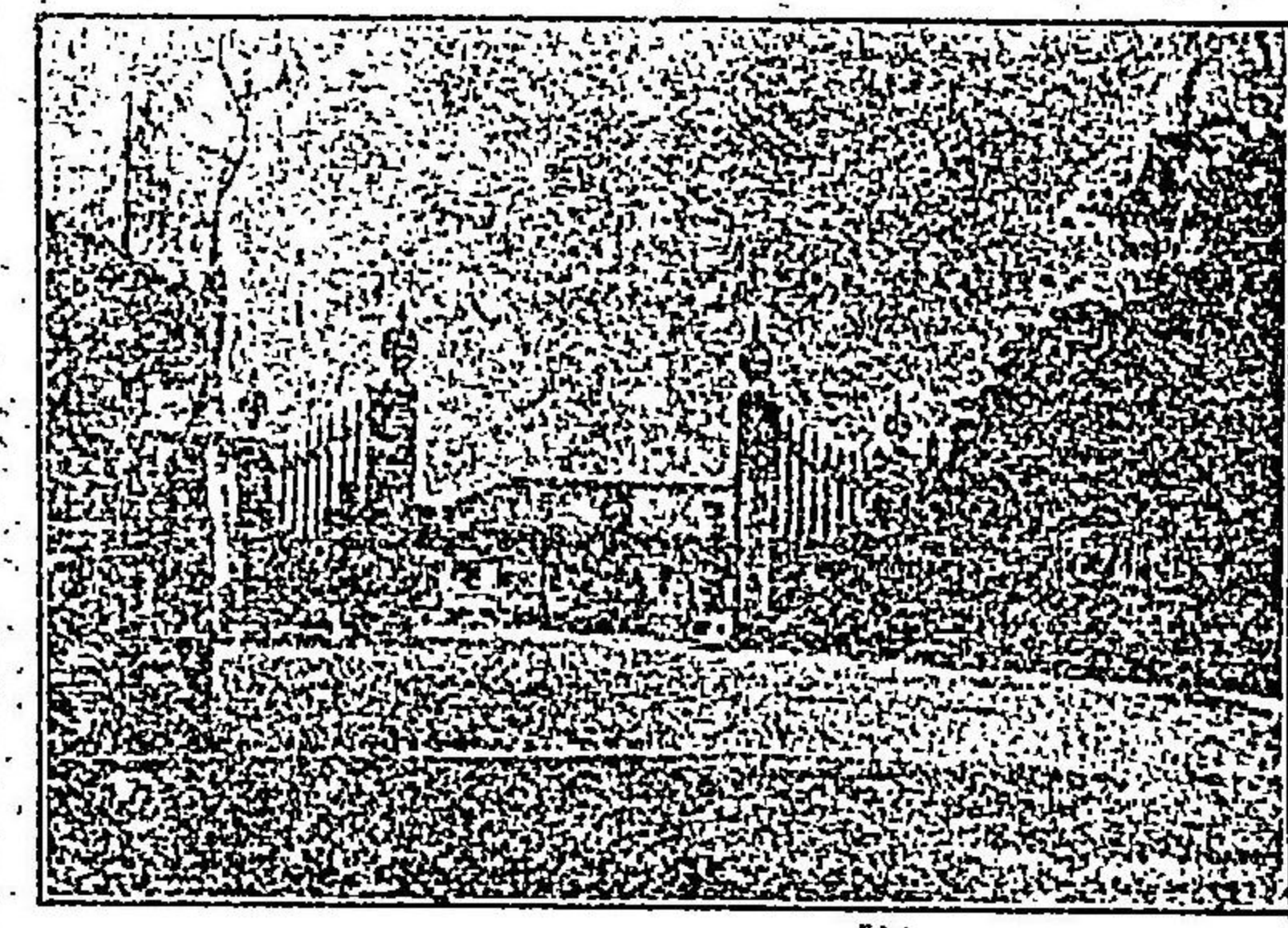
▲其五、鮎田の池

猪の鼻臺後方數町の所にあり現今の種畜場前
の田圃中により當時は附近一帶運續して一大
池を作りたるか城燒けて荒廢すると同時に埋

没し水田に化せり今は小池を存す鮎田の落雁
も亦千葉八景の一に屬す。

▲其六、千葉神社

千葉停車場前通り本町に入る右側の社境是な
り、千葉氏累代の祈願所、祭神は天御中主命
相殿には日本武尊、經津主命を奉祀す。千葉
氏の頃は妙見尊生王と稱し桓武天皇の時、上
野國より
千葉の祖
先平良文
に依りて
奉祀せら
れたるな
り、其
始め妙見
寺と稱し
御一條天
皇の御祈
願所とな
り、其後
徳川幕府時代までに二回火を失し、天文十六
年再建、徳川氏に至り祿二百石を給せらる、
維新前まで徳川氏代々の祈願所たり。次て神
佛混淆を禁せられ社祿を奉還し千葉神社と改
稱し、明治七年縣社となる、同年火を失して
全焼し再建して殿宇壯美を盡し千葉名所の一
たりしか惜哉三十七年又全焼の厄に逢ひ現今



鐵道聯隊

は假社を建て目下再建計畫中なり

▲第七、千葉寺

千葉寺村にあり、千葉町を距る東方十町許り
千葉寺は俗稱なり。眞の名稱は海照山觀喜院
といふ。眞義眞言宗豊山派に屬す、同寺は千
葉家累代の祈願所たり、千葉寺にあるを以て
斯く稱したり。行基菩薩の開基せる所、本堂
には十一面觀世音を安置す。行基菩薩の親ら
作る所なりと言ひ傳ふ阪東二十九番の靈所衆
者常に絶へず因に行基菩薩は聖武天皇の御代
の人なり、千葉寺の晩鐘は千葉八景の一なり

▲其八、大日寺

千葉神社の西隣になり、眞義眞言宗豊山派に
屬す光顯天皇(四十六代)の御代仁王法師の開
基せる所毘盧阿彌陀を奉祀す。脇祀不動明王
を祀る。大治元年平常重(良文の孫)上總國大
椎より千葉に移り千葉介と稱し其祖良文の靈
を此所に移す是より大日寺は千葉家累代の菩
提寺となる。現に中央に尨大なる石塔あるは
常胤の墓標なり常重の父常兼以下胤昌等の墓
標十六基を存せり當時の千葉家は房總武相の
五ヶ國に君臨し武威四隣に振ひ幕末に至り阪
本龍馬等の千葉に來りて謀議を凝せしは此大
日寺の奥院なり

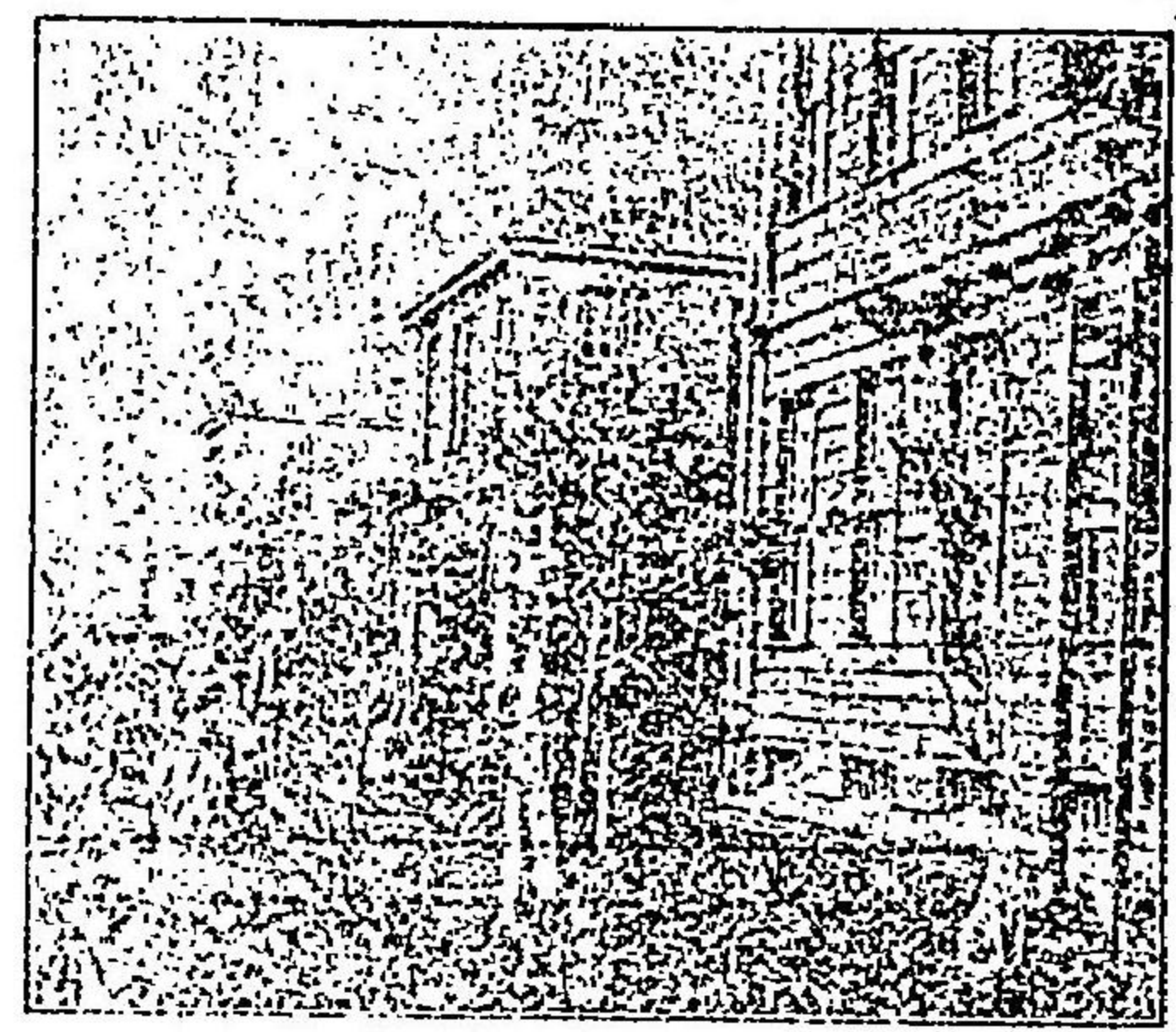
▲其九、來迎寺

千葉町にあり千葉家の氏胤等以下七基の墓を
なし是亦千葉家菩提寺の一なり傳へ言ふ同寺

は京都萬里小路家のもの住職たることなりと
又一説には尊空法親王の縁故もありと、目下
調査中なり

▲其十、七生松

千葉醫學専門學校
の庭前に一株あり
其附近に七株あり
之を七生松と言ふ
松のある所必ず塚
あり或は千葉氏の
一族なりとも言ひ
我は寶物なりとも
言ふ工事中一塚を
崩せる時中より古
錢古器物を發掘し
たりと言へは後説
眞に近し。



▲其十一、結城野

寒川片町の北方一帶鐵道沿線の田圃を稱して
結城野と稱す

▲其十二、羽衣松

千葉新公園の中小高き所にあり往古千葉氏の
盛時に當り盛夏の候天女來りて其の盛況を見
る内汗を拭はん爲め羽衣を脱ぎ枝に懸け汀水
を賞し居たるに衆人に認められ羽衣を着るに
追なく天に向て去りたるより此名ありと或は
常胤の孫成胤天稟美貌なり嘗て上洛中殿中の

官女に懸想され共に千葉に來りたり然れど
も城中に女人を入るを禁しなれば此松に其
着くる所の十二單衣を掛け天女來れりごて城
に入れたり官女は終に城中に天命を終りたり
と言ふ羽衣の夜雨は千葉八景の一に
屬す

▲其十三、袖ヶ浦

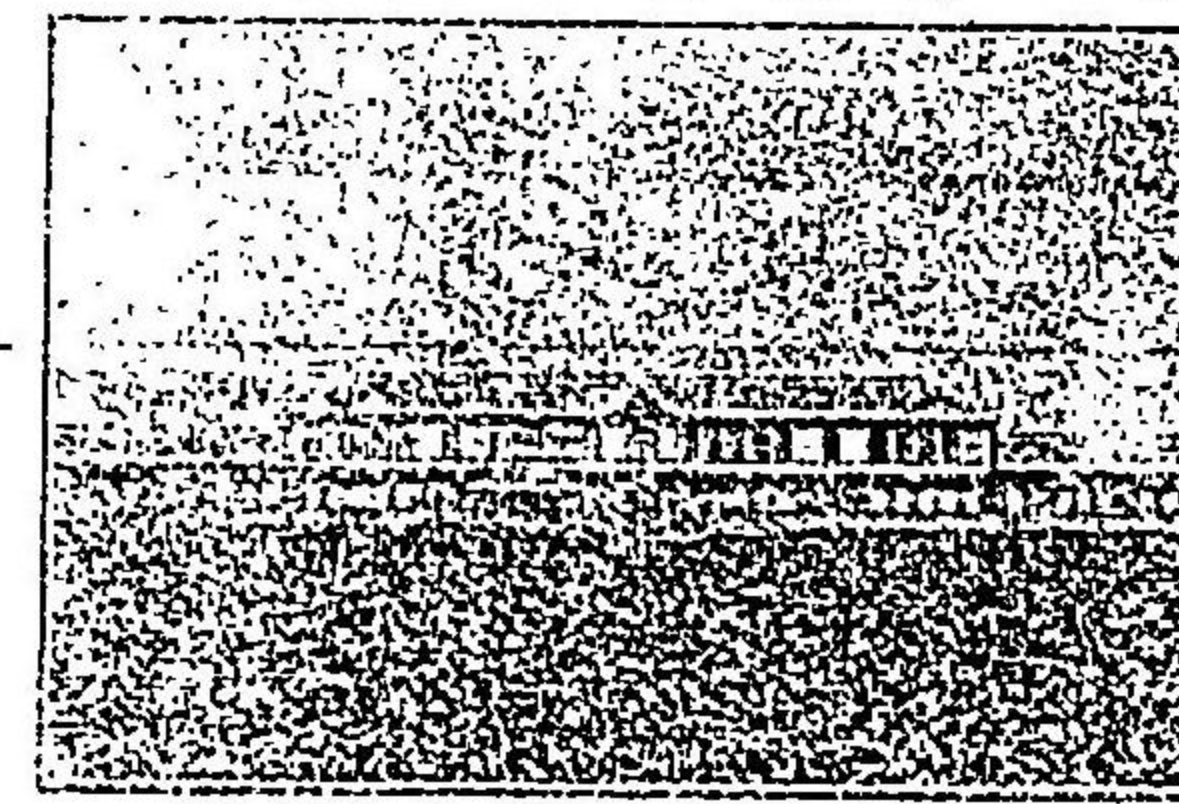
寒川一帯の沿岸を總稱す、袖ヶ浦の
歸帆は千葉八景の一に屬す

▲其十四、白幡の舊蹟

寒川の白幡神社是なり千葉常胤頼朝
を請して白旗を茲に建て近任の兵を
募集せり頼朝を發して武藏に至る
祭神は豊田別天皇、息長足姫布を奉
祀せり寒川神社の攝社たり

▲其十五、待橋

千葉町より寒川大橋の前待橋交番
所の前に石橋あり即ち待橋なり源
頼朝伊豆に破れ房州に上陸して迂回
千葉に來るや千葉常胤之を迎へ城に
入らんとし先導す時に治承四年九月
十七日なり其子頼胤城を出て騎兵を
率ゐて頼朝を此所に待つ依つて此名
あり蓋往古は城壕の一橋なりしか
頼胤の歌に、
見へ隠れ八重の潮路を待橋や
渡るもあへず歸る船人



▲其十六、戻り鐘

千葉寺にあり。龜山天皇弘長元年鐘破れて改
鑄方を江戸の鑄物師に依頼せり然るに破鐘の
鑄物師方に在つて愈改鑄に取掛らんとするや
毎夜異聲を發して千葉寺と鳴るが如きもの毎
夜連續し鑄師恐怖して改鑄を止め船に積んで
海路千葉寺に送還せりと言ひ傳へ千葉七不思
議の一に屬す。

▲其十七、千葉八景

以上記載の内千葉八景と稱せるものにて洩れ
たるもの寒川大橋の晴嵐吾妻臺の暮雪等を加
ふ吾妻臺は交通兵旅團附近の高臺なり同臺上
より千葉町附近の全町及袖ヶ浦等の眺望な
り登戸の夕照又其一に加はる

▲其十八、赤十字支部

本千葉停車場の前にあり赤十
字支部事務所にして明治三十
五年起工三十八年六月竣工諸
師工費一万二千三百三十圓別
支那控所五千五百十六圓を要せ
りと縣廳舎と相並んで宏壯な
る建築物に數へらる支部創立
は二十九年七月一日にて支部
員現在三万五千九百餘名職員
八十五名を有せり

▲其十九、聖立病院

廿年九月迄文部省直轄なり、か後縣立千葉病

りするも概平坦にして車馬の便自在である、殊に院線武蔵鐵道、常盤海岸線等は何れも成田鐵道と連絡して成田遊覽の機關を爲して居る、總武兩國橋より乗車して二時間廿分餘、千葉より五十分、舊日鐵上野よりも約二時間半で達する又た銚子、茨城、栃木各方面よりするものは利根川、霞浦航行の汽船より成田鐵道に連絡するの便もある

◎現在の町勢

戸數千五百戸人口約一万人を有し、町の區域は餘り廣くないが人家櫛比して頗る繁華の市街である、殊に新勝寺の伽藍は町の中央に在り、旅館其他商店の建築も宏壯見るべきものが多い、全町を通じて商八農二の割で、就中旅館、飲食物商等が大部分を占めて居る

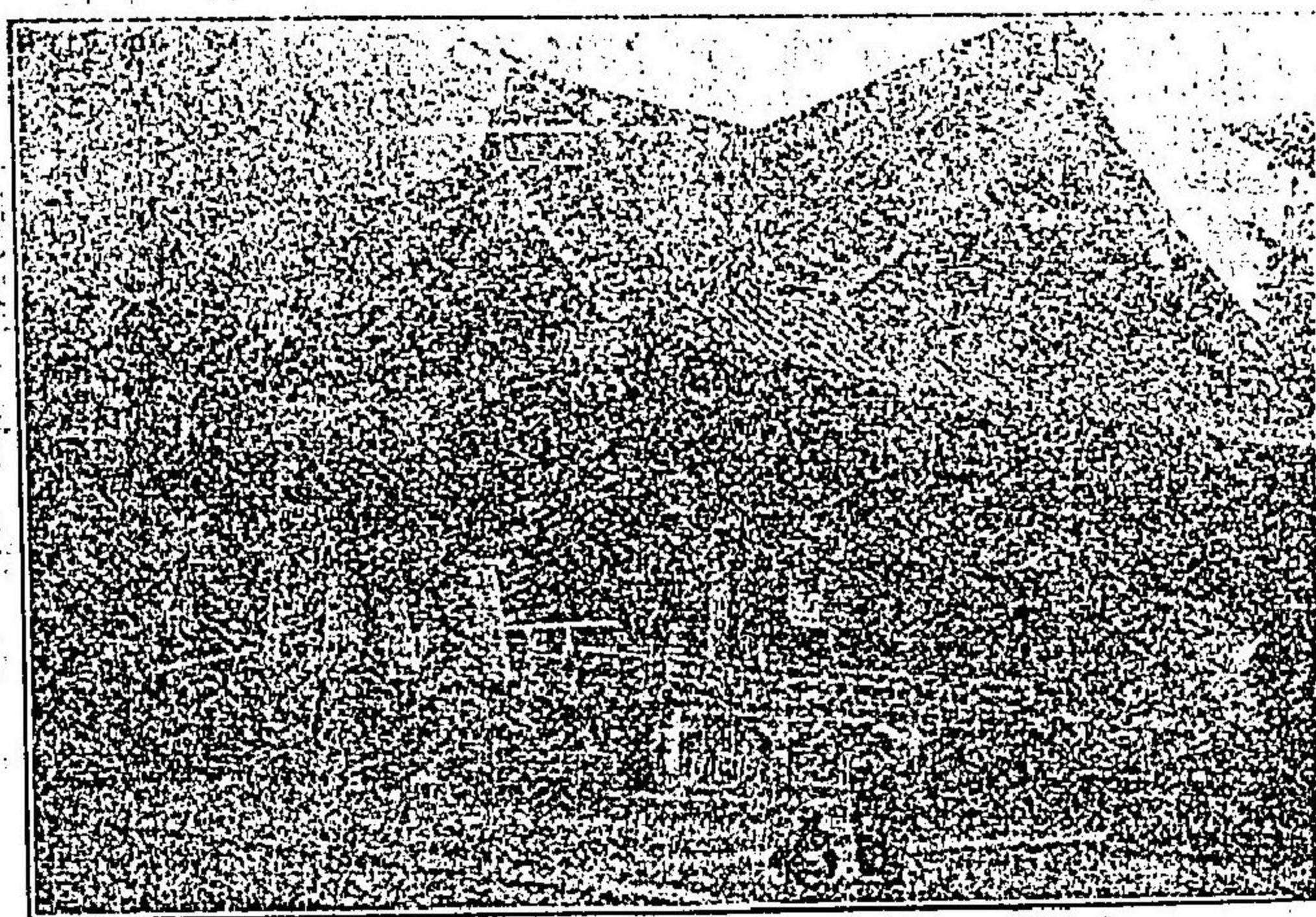
◎新勝寺の教育事業

教育機關としては成田尋常小學校ありて町の經營に成り、成田中學校、成田高等女學校等は新勝寺の經營である、高女校は創設日淺きも成績大に擧り、成田中學校は既往十數年來成績良好で常に俊才を出して居る、尙其地に成田感化院、幼稚園、圖書館等も同様新勝寺の經營に成つて居る、全山主の育英事業に於ける其功勞や實に多とすべきである

◎成田山の形勢

成田山は町の中央國道に接し石垣左右に長く

堂庭を貫通する三條の通路から二王門に向ひ石階を傳ひて本堂に登る、莊嚴なる境内は悉く金石を以て疊み上げたが如く其偉觀は故らに喋々する迄もない、先づ山内の組織の概況を記せば、仁王門、本堂、光明堂、庫裡、五重



成田山本堂

側なる成田山公園は梅櫻其他四時の花卉で満ちて居る

◎成田山の縁起

成田山新勝寺は其初は京都市上嵯峨大覺寺門跡の末寺であつたが故あつて近代大本山智積院の末となつたのである、本尊不動明王の佛體は弘法大師の手作との事である、全山は開山以來七度火災に罹つた爲に記録の大部分は焼け盡くし詳に知る由もないが、天文年中及寛文中に成つた遺記から見ると今を去る九百六十年前朱雀天皇の御宇將門叛亂につき時の朝廷は叛賊調伏を諸國の寺院に修法せしめた其時寛朝大僧正は、救を奉じて弘法大師手刻の不動の像を請じて上總國尾垂濱に着し、下總公津ヶ原に至り大法を修したるに靈驗顯著にして將門忽ち誅せられ亂平ぎて後、救ありて供田を賜はり此處に一寺を建立したとの事で又戰勝に因みて新勝寺と寺名を附けたとの事でもある、公津ヶ原は今公津村に遺跡を存して居る

◎成田山公園

奥山の一部で光明堂の側なる廣大なる庭園の總稱である、地位高燥で成田市街を一時に收め、郊外の耕田より遠くは際涯無き四方の松林を望み、數百株の梅は老幹榭牙枝を交へ、また近年移植したる櫻は若樹の枝葉恣まに空

天に向つて延び茂り、凡四季の花弁として瀟々事無く集めてある。

◎成宗電車

成宗電軌株式會社の經營にて成田、宗吾間往復の電車は、此間里程一里餘、從來車賃平時片道廿五錢、馬車賃全十八錢であつた處を往復廿二錢片道十二錢で、時間は往復僅々十五分間である、成田町内を運轉するものは成田停車場前より成田山門前迄往復六錢、片道四錢である

◎旅館案内

成田町は外客の爲めに生活して居る丈けに旅館は頗る多い、之を一々紹介するは容易の業でない、又其必要もあるまいから先づ重なるものを案内して置こふが、假りに等級を附けて見れば左の如くであらう。

- ◎一等部の部
 - 大野屋、若松本店、海老屋、あづま屋、小川屋、梅屋、魚田丸家、飯田屋
- ◎二等部の部
 - 丸屋、中屋、駿河屋、菱屋、松田、阿波屋、新阿波屋、中屋、丸屋、佐野屋、ひさごや、布袋屋、若松分店、吉岡屋、濱屋、扇屋、(以下三等)

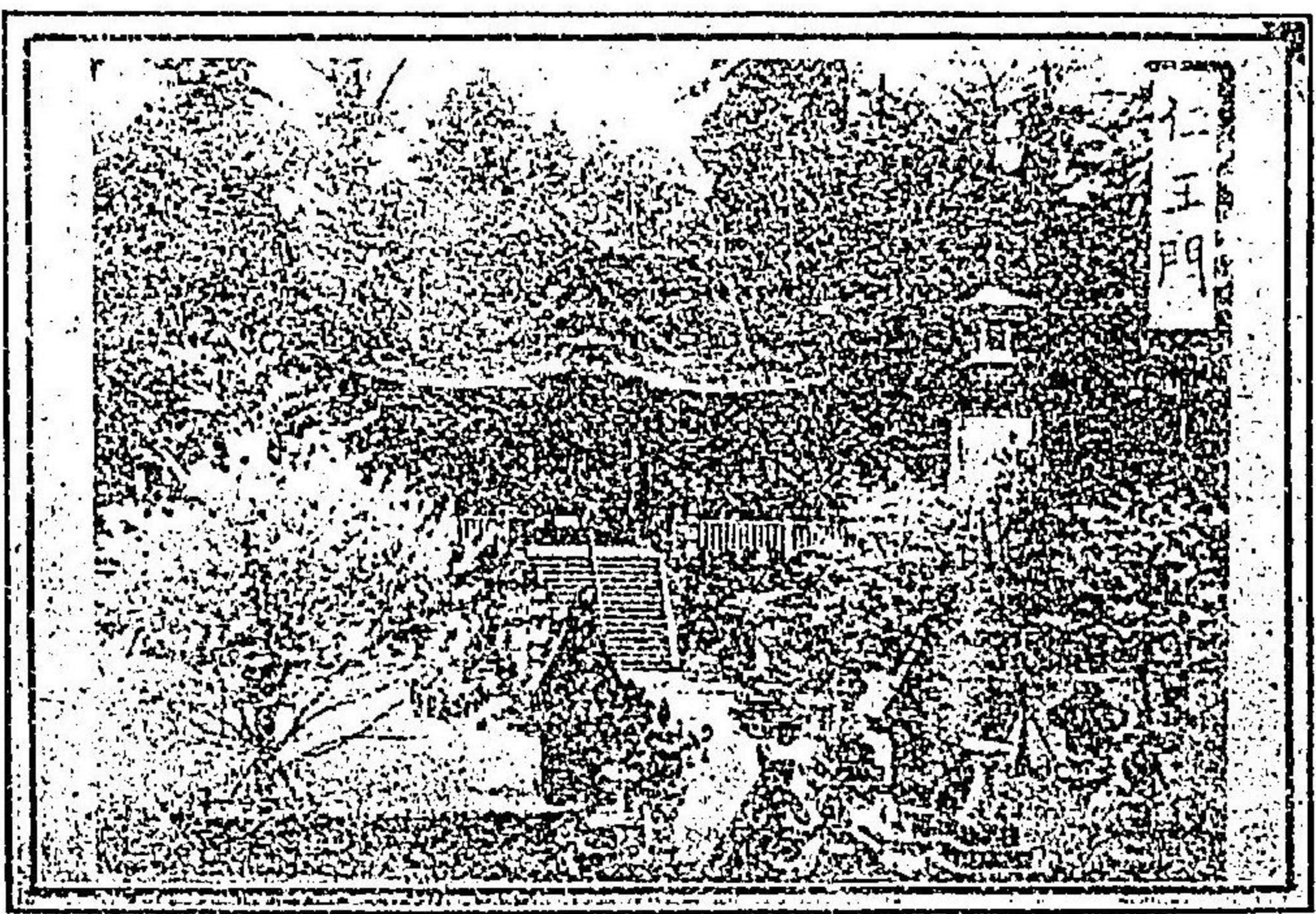
◎醸造家

酒類醸造家大塚源吾右衛門は縣下の大醸造

家にして又多額納税者である、其醸造に係る銘酒蓬萊、不二、一山共に好評あり、醬油醸造家は石井武助、石川虎之等である

◎信用商店

▲吳服商にては長谷川利左衛門、長谷川吳服



成田山仁王門

◎宗吾案内

千葉町民の精神的模範と爲すべき義民佐倉宗吾の靈を祀れる、印旛郡公津村なる靈堂は昨年九月祝融氏の爲めに襲はれ、現任職田中照心師が多年の苦心經營によりて建築され、漸く全部の竣工を告げた斗りの堂宇を、可惜一塊の灰と化して仕舞つたが、其後直ちに工事を起して假堂建築中の處工事は大に進捗して去る十八日を以て御入佛濟となつた。

◎宗吾の位置

宗吾靈堂所在地は印旛郡公津村の台方區であるが一口に宗吾と通稱して居るので宗吾の方が分り易い、酒々非驛から一里、成田驛からも一里と云ふので從來は交通上少し不便であつたが、近來成宗電車の開通以來頗る交通の利便を得て參拜者も次第に増加して來る、千葉町を距る七里弱である。

◎休泊所案内

當地には旅館も七軒あつたが昨年の火災に罹

りて全部焼失し、其後漸く新築の運びに至つたのだが、新茶屋、鷺田屋、佐倉屋、新阿波屋支店だけで、新茶屋が先づ一等旅館であらふ、何れも休處を兼ねて居る。

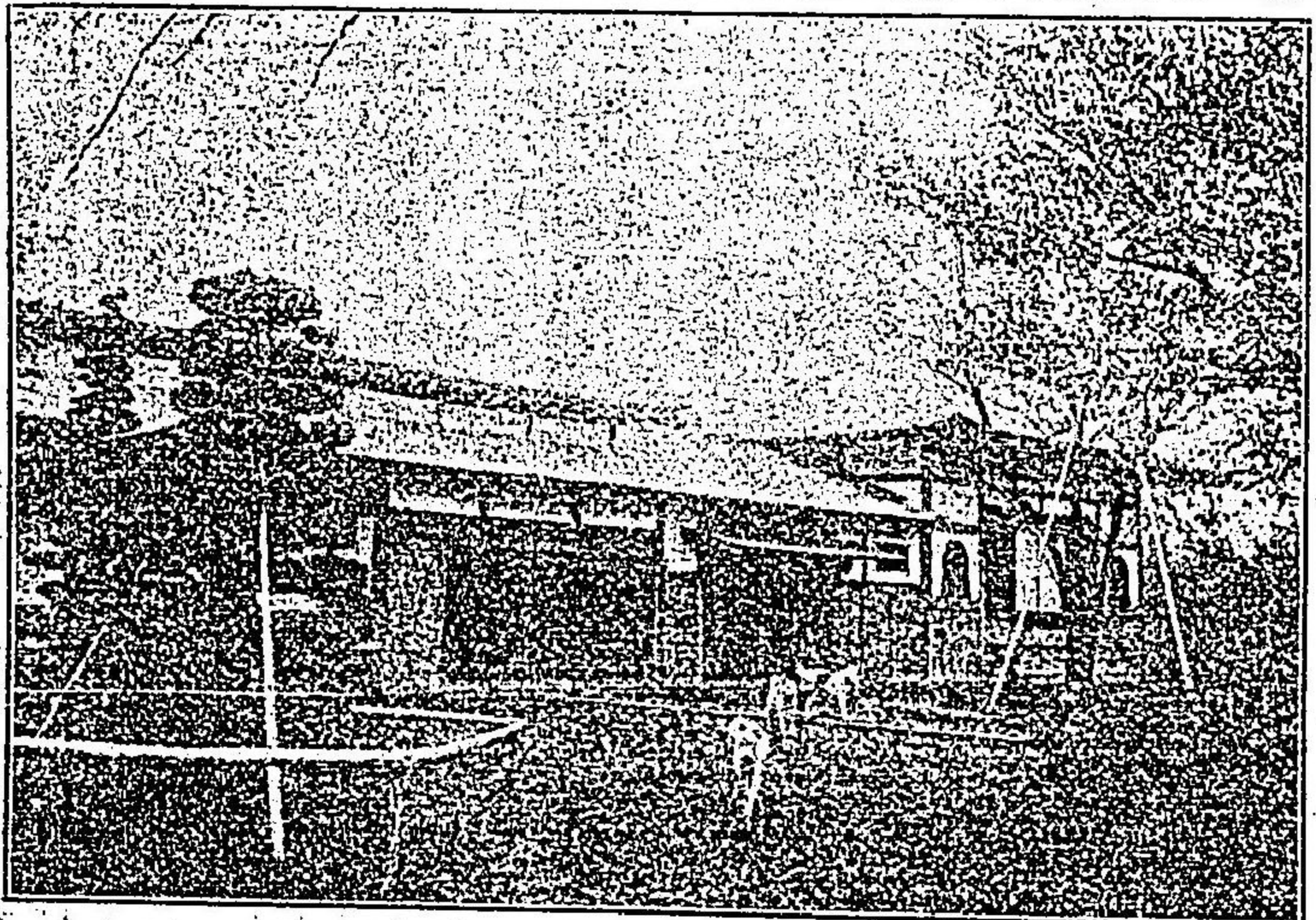
◎停留所と商店

宗吾電車停留所は靈堂門前、酒々井道路に沿ふて約二丁、此の部落での町外れでも云ふ處に在る、停留所前の大木商店は酒煙草、名物貝せんべいの一手販賣店で當地一流の商店である、次は筋向心の石橋商店は荒物商で大木に亞ぐ共に有力商店である。

●房總線名所案内

本千葉を起点とし大原を終点とする房總線は延長四十一哩餘に亘り其間に於る沿線所在地には名所もあれば舊跡もある又繁華な町や遊覽地、避暑地、海水浴場等にも富んで居る、今や之が紹介を爲すも旅行家遊覧客などの爲めに幾許か参考の資料にもなるべしと左に案内する次第である。(千葉本千葉兩所は千葉の部に付除く)

▲蘇我町 本千葉を距る二哩半此の附近は其昔は曾我野川岸とて東京、横濱、神奈川、浦賀等へ往復する内海航行の船舶の碇泊地で、頗る般賑を極めたものだが、房鐵敷設以來は此地に集積する貨物の全部を全鐵に掻ひ去ら



鳴鐘山東勝寺

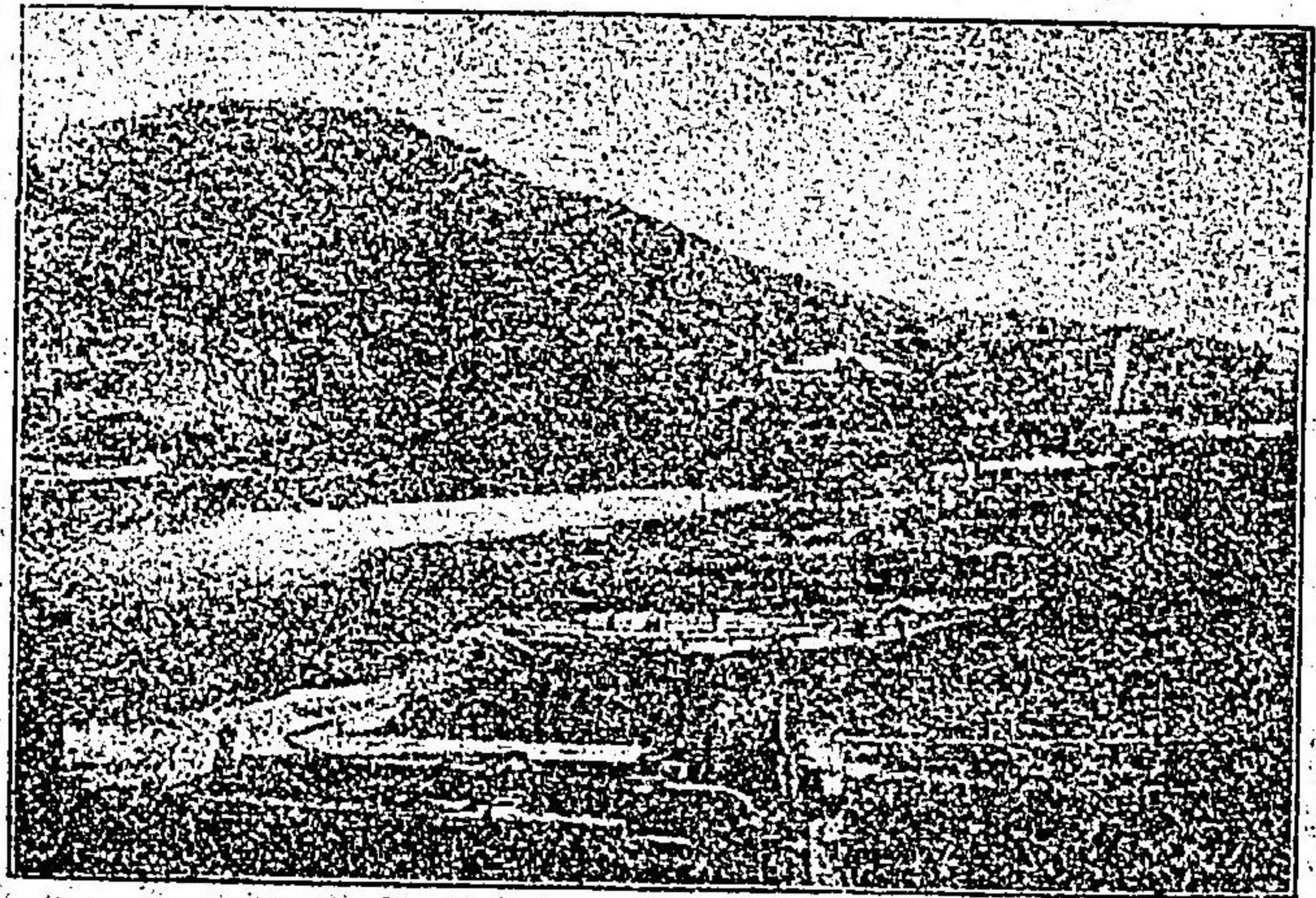
て居る、境内樹木鬱蒼畫尙暗く、水鳥は群を爲して巢ふ處、古跡今尙存じて居る。
▲野田驛 蘇我を距る五哩、舊野田の宿を去る約十丁の山間に在るので驛の所在地も

隨つて賑はぬ、商工業共見るべきものなく、只地位開墾地に接する丈けに農蠶業は多少發達して居るらしい、名所や遊覽地の案内すべさもないが、秋季には初茸の發生夥しく茸狩の名所で、又狩獵地の名所でもある、今や將に蕨狩の期に入つて居る。

▲土氣本郷町 野田を距る三哩半、矢張り土氣驛の所在地で昔は酒井家十餘萬石の城下であつたが、酒井家没落後は一寒村となり下り、今では城跡の形だも止めぬ皆山林や畑と變じたのである、只遺つて居るのが酒井家の菩提寺たる日蓮宗所謂七里法華の觸頭本壽寺、善勝寺の二刹のみである、現在戸數五百二十餘、人口三千二百三十を有し土氣町役場が町の行政機關となつて居る、有名なる房總線の土氣のトンネルは善勝寺境内の下を貫通して居る。

▲大綱町 土氣を距る凡三哩餘にして、全所は東金線への分岐點で本線中有數の地で貨物も乗客も相應にある、町は停車場の裏手になつて居る、此處には郡立女子技藝學校がある、郵便局、登記所等の官衙もある又町役場もある、案内する程の名所もないが禮拜所としては日蓮宗の巨剎本國寺と蓮照寺があるが本國寺は元は宮谷檀林とて全宗の昔の大學校であつたのだ、又宮谷八幡宮がある、此

大儒・秋生・徂徠の生母の墓は亦此地に在る、何れも本納驛より數丁、戸數六百七十、人口三千六百七十餘



淡の天神山

▲茂原町 本納驛を距る四哩半、茂原驛は貨物の集散の多き房總線内第一である、有名なる茂原市は月六回開設さるので町は意外に賑て居る、町内遊覽地として紹介すべきものもないが、禮拜所として藻原寺、鷺山寺など日蓮宗の巨剎である、長生郡役所、茂原警



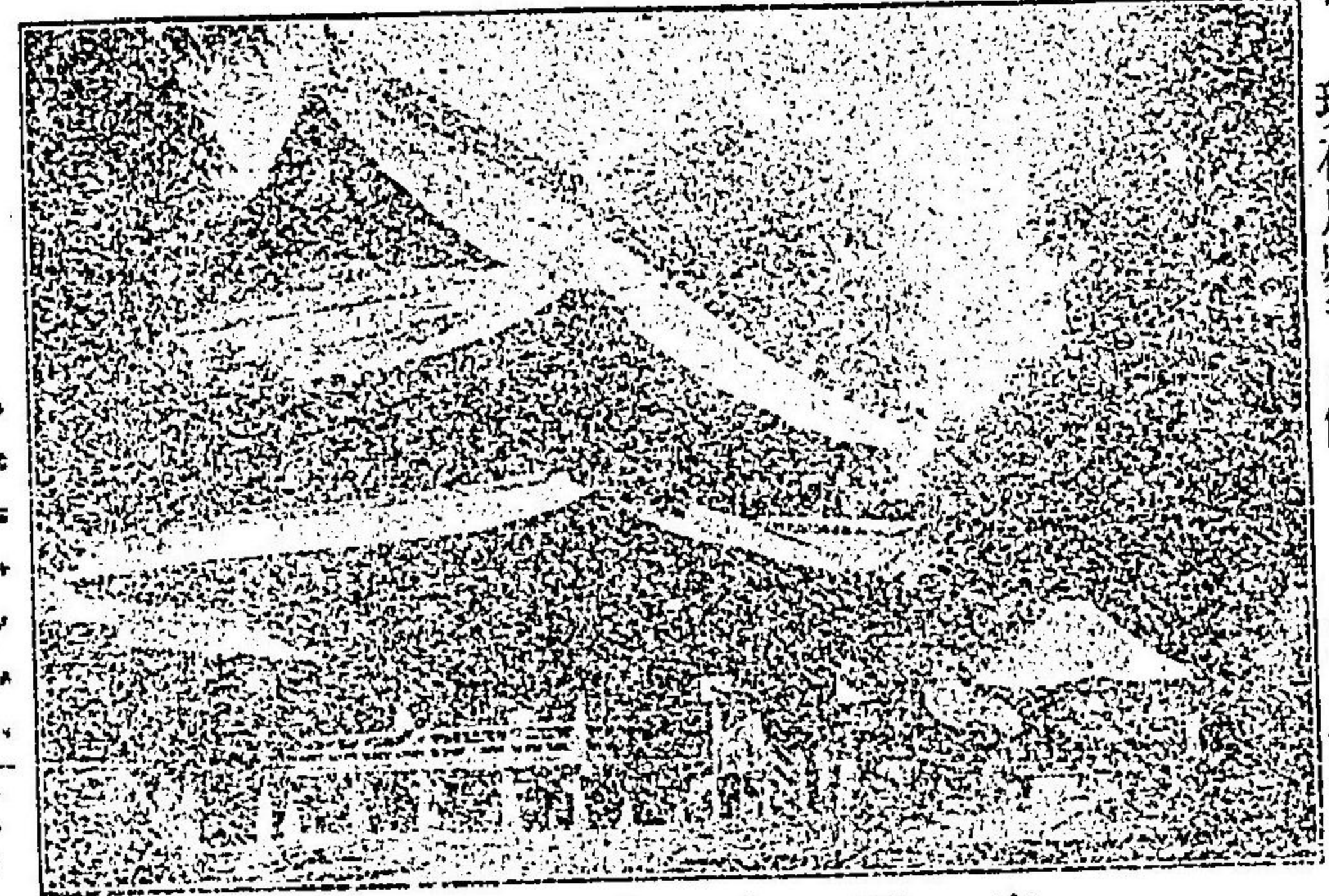
一ノ宮川の清流

八幡宮こそ當地から流行り出した俗謡(宮谷坂)の出所である、商業は餘り振はぬ方で工業としては片岡煉瓦製造所、渡邊精米所、三ヶ乾燥場、石野氏の酒造等で、旅館は近江屋、角柳最確實である、當地は頗る盆栽趣味に富んで居る所で、隨て珍草奇木を蒐集して居る者も多い。

▲東金町 大綱を距る四哩半餘の東方で東金驛の所在地で房鐵一部線の終点で又起点で

もあり、前に九十九里海岸を控へて居るので驛の前には常に海産物を見るが、又米穀、木材、爾其他産物の夥多な處丈けに割合に町は賑つて居る、町は名にし負ふ上總の東金であるから自然高尚な風も見える、昔酒井氏一家の居城であつた城山は今竹林と變じ、維新前板倉氏が領した當時徳川氏上總御成りの際旅舎に充てた御殿の跡は今高等女學校の敷地となつて居る、縣立高等女學校は一昨年の起工に係り該校舎は畧ぼ竣工したが未全部竣工には至らぬ、けれど入學生徒は常に定員以上の希望者ありて校運の隆々たるは賀すべき事だ總武線成東驛に連絡する新線路も目下工事中で本年中には開通の見込である、遊覽地には八鶴湖畔の景、鶴ヶ峯山頭の眺望(九十九里濱遠く太平洋一望)東金不知の奇勝等が重なるもので、禮拜所は日吉神社、西福寺、本願寺等である實業家には篠原藏司、勢能土岐太郎、蠶業家には高宮辰治郎、名家としては内田彌次馬、大野傳兵衛等である現在戸數千八百、人口九千五百餘を有して居る山武郡役所、警察署、稅務署、登記所、郵便局等の官衙あり。
▲本納町 大綱驛を距る三哩餘本納驛の在る處で現今町勢は更に振はぬが、縣社橋神社あり日本武尊妃橘姫命を祀る、社は縣道に沿ひ右木茂りて頗る幽雅な境内である、近世の

警察署、税務署、登記所、縣立茂原農學校、私立大成中學校等、又金融機關には茂原商業銀行、日吉銀行とがある、現在戸數千二百餘、人口五千六百を有し、農工商業發達して居る方が、就中工業として林多喜一郎の乾燥、及吹製造、前橋製糸場等が重なるもので、旅館は大和屋、小倉屋、武田屋が重なるもので、貨車場前に鶴岡、宮崎などある。

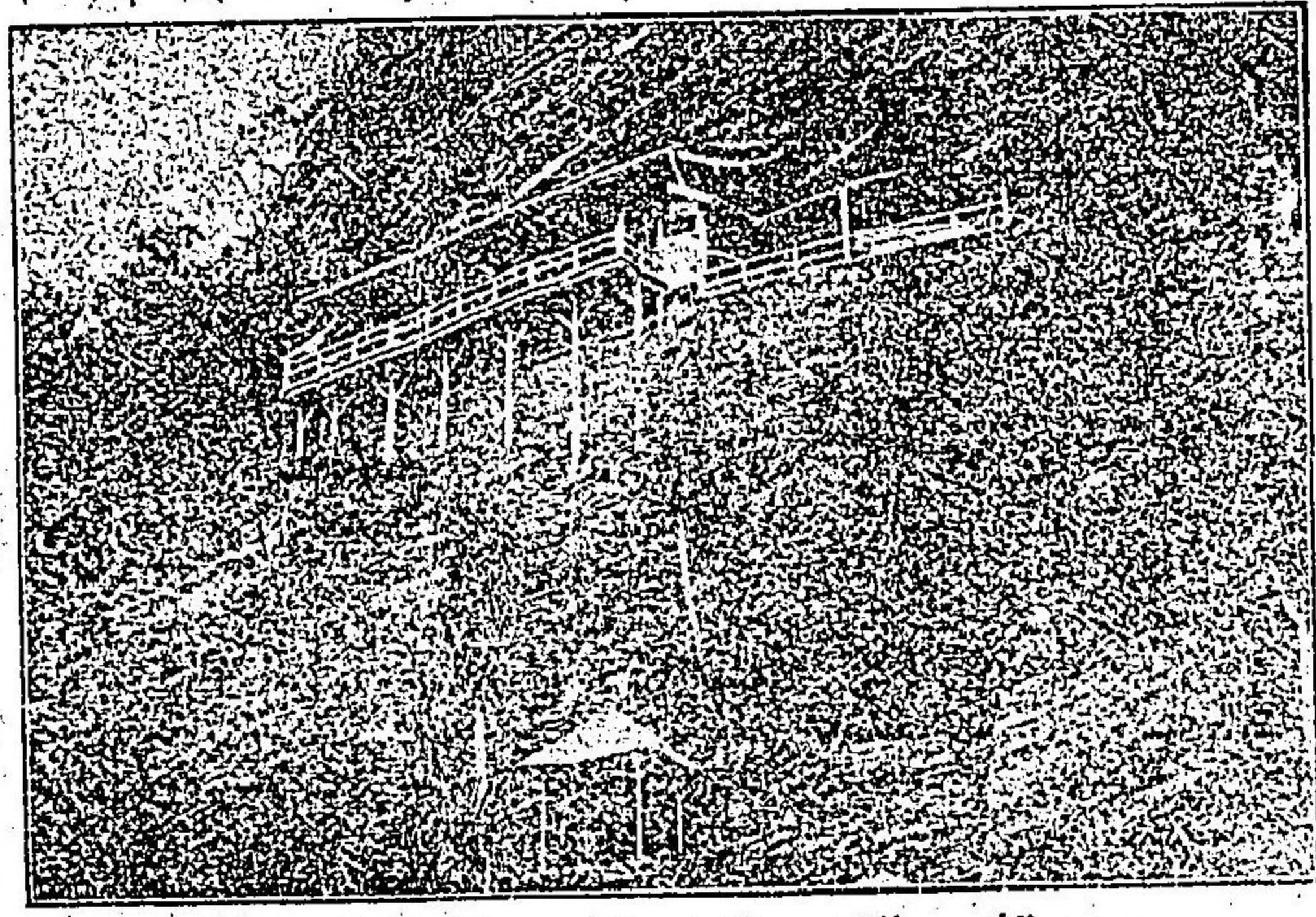


鹿野山神野寺

は平廣常の碑あり昔天正年間正木氏の割據した所、今は形跡を止めぬ、此地附近一帯の村落は所謂九十九里濱の一部で、海岸には白沙青松の相連り遊樂場、海水浴等に適するので、帝都在住の名族紳士連の別荘を設ける者續々現はれ、將來發展の機運に向つて居る、此分では海岸一帯別荘地に變ずる又遠きを出でぬであらう。

▲大東村 一宮驛を距哩 大東驛は全村椎木地先に在る、上總海岸勝景地の一に太東岬は村の南方海岸に角立し、下總飯岡岬と相對し此間二十里の海濱を九十九里と稱し、砂白く浪躍りて眺望最も宜し、此地海岸至る處風光に富む。

▲大原町 太東、長者町、三つの三驛を経て房總線の極端で、終點大原驛の在る處である、元中魚落卿と云つたのを小濱を合して大原町を組織したのだ、戸數千五百五十餘、人口八千六百を有し、町民は半商半漁位で海産物の豊富なる爲め町は却々賑はつて居る殊に海岸景色の絶美なる所から帝都の名士



館の二と稱せられ、停車場前に聳ゆる三層樓

▲一宮町 茂原を距る約七哩、此地は舊加納家の領地、上總東南部の小都會である、官衙には區裁判所、警察分署、郵便局等あつて、現在戸數約九百、人口五千餘、大部分は商家で其一部が農家漁業家で比較的財力は裕である、國幣神社玉前神社を奉祀してある、軍茶利堂は東浪見村に在り一宮町より約一里、一宮城趾に

▲大原町 太東、長者町、三つの三驛を経て房總線の極端で、終點大原驛の在る處である、元中魚落卿と云つたのを小濱を合して大原町を組織したのだ、戸數千五百五十餘、人口八千六百を有し、町民は半商半漁位で海産物の豊富なる爲め町は却々賑はつて居る殊に海岸景色の絶美なる所から帝都の名士

は別荘を造る、避暑、海水浴の客は夏季には多數入迄むので町も次第に發展して來る、帆萬千館は小濱八幡山下に松濤館、大原館、翠松館、東海樓などは塩田浦に在り何れも驛より八丁乃至十丁で皆客を待つに懇切である、遊覽地としては八幡山である、此山は至つて小き岩山であるが、其海中に斗出し骨を露はせる如き山体と、斧以て削れる如き奇形とは共に一種の奇觀で、縣下に於ても絶景の一に數へられて居る此山上に立ちて烟波渺茫たる大洋を望む又愉快の極みである、重なる旅館は竹樓綿屋なぞで竹樓は縣下大旅館の二と稱せられ、停車場前に聳ゆる三層樓は田舎に見られぬ建築で、確實勉強の高等旅館であ。

●香取、佐原案内

香取神宮は經津主尊を奉祀せる日本全國唯一の官幣大社である、莊嚴なる社殿の廻りには老杉茂りて晝尚ほ暗く、彌良き大神の前には凡夫も尙且敬虔の心起らざるを得ぬ、境内頗る廣く至る處に大なる杉の繁茂して居るを見る世俗香取の杉と稱して此杉は神代以來の特殊と言傳へられて居る、櫻の馬場、香雲閣等は香取名所である

▲櫻の馬場

神宮裏手の神苑で一圓に櫻の木のはへて居るので里人之を櫻の馬場と稱するので、花は山櫻の、別に美しからぬも地位一層高く、瞰下す處に利根川の流れば白蛇の行くが如くうねりて手の届くように見え、遠くは十六嶋耕地を隔て、潮來出島の名勝を一望し、又霞ヶ浦の汪洋たる等天然の奇勝を、恰一幅の山水畫と眺むる事を得るので四時遊客は絶えぬ茶店も六七軒あつて就中香亭などは紳士の休憩に堪ゆ、殊に春季から夏季にかけては其景色又格別である。

▲香雲閣

神苑櫻の馬場の一部に建築されてある宏大な二階建家で香取神宮の附屬全様に貴賓の休憩所や、風流人士の雅會やらに充てられて居るが、香雲閣は元來別に經營者のありて創立

▲参拜順路

香取神宮参拜順路は東京よりは總武、常盤河津の線に於て成田より成田参詣され、鐵道佐原線により下車し、佐原市街を経て行程約三十町、道路は平坦で車馬徒歩何れも便利である、成田より佐原まで五十分間で行く又千葉共進會觀覽後に香取参拜をするも好都合である、矢張り千葉より成田へ行き佐原線にのり換るのであるが、千葉成田間も五十分間で成田に待合せ成田山参詣の時



香取神宮

▲奈良屋と川島

口一萬五千を有し房總三州中の富豪町と稱されて居る、醸造品には雪山、有慶各印の味淋、正上、大星、兜印等の醬油は帝都に名聲を博して居る、利根川に沿ひ汽船の着航地、成鐵の終點地等の爲め頗る繁華な地で、香取、鹿島参拜順路の要衝である。

▲奈良屋 縣下第一の大呉服店奈良屋は、本店京都の杉本新左衛門の經營であるが、當地は勿論千葉縣下に二と云つて二の無い程で、先づ佐原町近在の一名物である、佐倉に支店あり千葉にも出張店あり、佐倉支店も全地第一である、佐原奈良屋は呉服の外に洋服、洋物其他の美術的雜貨、貴金屬から書畫骨董迄頗る營業範圍が廣い、當春新陳列場竣工以來は、商品の陳列方大に整頓し、宛然小三越呉服店の觀がある、實に千葉縣の三越と云ふべきである。

▲佐原町案内

佐原町は縣下第二位の町で戸數二千八百、人は別荘を造る、避暑、海水浴の客は夏季には多數入迄むので町も次第に發展して來る、帆萬千館は小濱八幡山下に松濤館、大原館、翠松館、東海樓などは塩田浦に在り何れも驛より八丁乃至十丁で皆客を待つに懇切である、遊覽地としては八幡山である、此山は至つて小き岩山であるが、其海中に斗出し骨を露はせる如き山体と、斧以て削れる如き奇形とは共に一種の奇觀で、縣下に於ても絶景の一に數へられて居る此山上に立ちて烟波渺茫たる大洋を望む又愉快の極みである、重なる旅館は竹樓綿屋なぞで竹樓は縣下大旅館の二と稱せられ、停車場前に聳ゆる三層樓は田舎に見られぬ建築で、確實勉強の高等旅館であ。

▲川島樓 佐原町の川島と云へば何人も高華料理店として首肯する處であるが、先年離亭廣間新築以來は客室が一層整頓して來た、殊に先月中新浴場竣工したので花客の入浴隨意該浴場は構造から用材迄數寄を凝らし、單に實にのみ傾かないで大に振つた造り方である元來餘り感心せぬ佐原町の花柳界に當家の如き卓越したのがあるは一異觀と云ふべきだ、主人が氣六ヶ敷の原料精撰料理は新鮮、客は重もに地方紳士と帝都の人。

最

ヤ

釀造元

千葉縣大原町

莊司英吉

上

マ

原料ヲ選擇シ變味憂ナク品質
優等ニシテ最モ調理ニ適セリ

醬

ヅ

特約發賣元

東京四谷御門外
三河屋號

熊捕辰三

油

ミ

各地到所酒醬油店ニテ販賣ス

御用命ヲ乞フ

千葉縣一の牛乳は

上總茂原町高師

茂原改進社

蒔田氏牧場

千葉縣大網町

倉庫部

乾燥部

店主三木信

成田山一粒丸

大人小児はらのくすり

成田山明王散

産前産後血の道のくすり

成田山血留明治散

ちぢめきりきつものくすり

成田山へ御参詣の方は往古より靈藥としてかならず御求めなされる三橋吉兵衛製藥は當地旅人宿へせり買は差出し不申候に付不相變御立寄の上御求めの程伏て奉願上候

下總 成田山門前

惣本家元祖 三橋吉兵衛

電話成田(十一番本店用)
振替口座(東京二六二番)
電話成田(三八番出店用)

千葉縣千葉郡千葉町本町三丁目

株式會社 千葉割引銀行

取締役 紅谷四郎平

支配人 川口眞吉

千葉電燈株式會社

社長 紅谷四郎平

支配人 今井與志雄

大人小兒はらのくすり
成田山一粒丸

産前産後血の道のくすり
成田山明王散

ちぢめきりきつものくすり
成田山血留明治散

成田山へ御参詣の方は往古より靈藥としてかならず御求めな
る三橋吉兵衛製藥は當地旅人宿へせり賣は差出し不申候に付不
相變御立寄の上御求めの程伏て奉願上候

下總成田山門前

惣本家元祖 三橋吉兵衛

電話成田(十一番本店用)
振替口座(東京二六二番)
電話成田(三八番出店用)

千葉縣千葉郡千葉町本町三丁目

株式會社 千葉割引銀行 (電話六五番)

取締役 紅谷四郎平 (電話一五九番)

支配人 川口眞吉 (電話一〇八番)

千葉電燈株式會社 (電話千葉四〇番)

社長 紅谷四郎平

支配人 今井與志雄

空氣清潔風光明媚避暑海水浴

旅館 御料理

竹樓

等には最も適當の地に在り

上總大原停車場前

藤江九兵衛

夷隅郡勝浦町

會社 勝浦銀行

關野 徳嗣

今回工場改良上横濱澁澤商店ヨリ技師ヲ聘シ機械ヲ改造シ

千葉縣茂原町

◎ 長生館製絲所

店主 前橋 寅藏

併テ工女ニ繰絲ヲ傳習ス

千葉縣印旛郡三里塚

九番地

御旅館 大竹屋

民事 刑事 其他 法律
事務 一切 取扱 申候

千葉吾妻町二丁目

宇佐美法律事務所

辯護士 宇佐美佑申

電話千葉二二三番

出張所
一宮町
福岡町
佐倉町

旅館

下總不動成田門前

大野屋

電話成田七番

料理部

同別館

館主 大野市太郎

一本 店 東京市日本橋區檜物町
 一創 立 明治七年十二月
 一資 本 金 壹百萬圓
 一積立及繰越金 百五十拾貳萬貳千五百圓
 一諸 預 金 貳千萬圓



支店所在地 東京富澤町、山城京都、常陸水戸、常陸石岡

合資 川崎銀行千葉支店
 同 銚子支店
 同 佐原支店
 同 佐食出張所
 同 松戸出張所

一創立明治十三年七月 川崎家一族ノ設立ニシテ
 一重役一同無限責任ナリ

一資 本 金 五萬圓
 一積立及繰越金 參拾萬六千九百四十六圓
 一諸 預 金 八百九拾四萬圓

東京市日本橋區檜物町

株式 川崎貯蓄銀行

東京市内支店代理店
 麹町區三番町、神田區松住町、本所區相生町、牛込區神樂坂、芝區西久保町、日本橋區富澤町、府下王子町
 地方支店代理店
 山城京都、常陸水戸、常陸石岡、下總千葉、下總銚子、下總佐原、下總佐倉、下總松戸

新築中の浴場も此程竣工致しました。舊



に倍 入浴 入浴 何卒 御來 遊希 程上 御浴 入浴 後に 新鮮 料理 夏は 衛生 上の 衛生 上の 又 格別 趣味 あり ます

御 旅 館

下總成田町不動門前

魚 田 丸 家

小野寺清三郎

電話成田三五番

御 旅 館

下總成田山東門角

あ づ ま 家

三 橋 金 太 郎

電話成田 番

預金利子改正

- 一 定期預金 (六ヶ月以上年六分 二ヶ月以上年六分五厘)
 - 一 當座預金 (百圓ニ付日歩金一錢一厘)
 - 一 小口當座預金 (百圓ニ付日歩金一錢二厘)
 - 一 特別當座預金 (百圓ニ付日歩金一錢二厘)
- 右之通り明治四十四年三月一日ヨリ改正仕り候

營業項目

各種預金 貸付金 當座預金金貸越
 手形割引 代金取立 送金爲替
 荷爲替 此他一般ノ營業種目
 以上各項精々御便宜且懇切ヲ旨トシ特ニ各地
 へ御送金ハ無手数料ニテ御取扱ヒ可申候也

千葉縣長生郡茂原町茂原通り町

株式 茂原商業銀行

振替貯金口座東京第九九九〇番

電話 信 略 號 (〇モ)

御料理

仕

出

千葉縣大綱
停車場前

新増樓

御料理

さそば

仕出し

千葉縣長生郡茂原町茂原

花村惣本店

川島勝三郎

登錄商標



優等すき油

近來各地に偽物相見へ候に付御注意願ます

ふかみどりすき油は小店數代の經驗に椿油に優等の香料を加へ製造したる故香ひ良く髪ノ毛の艶を出し少しも粘ばる憂なき故各地に頗る好評を博し縣下に數百の販賣店有之候に付最寄にて御買求あらん事を願ます

石蠟燭製造大販賣

ライシング石油會社代理店

石油煉油 潤屋

近江屋吉兵衛

上總東金町 電話(ヲミヤ)

旅館

茂原榎町

料理

大和樓

茂原停車場より五丁諸事注意を旨として待遇仕候

米穀肥料

販賣

鹽落花生

上總國大綱町

綿文商店

店主 加藤國吉

海產物肥料販賣

ヒゲタ 醬油特約店

上總大原町

鈴木 龜吉

◎ 鯉節、田作

◎ 煮干、製造

販賣業

上總國大原町

刀 士屋 慶藏

勝浦風景繪葉書及ヒ

案内發行所

夷隅郡勝浦町

活版 石版 淺野活版所

ゴム印製造及附屬品販賣

繭生絲買縱仲買

座繰製糸業

長生郡茂原町榎町

御園友治郎

電話(三)

生繭委託乾燥倉庫蒔叭
人造肥料販賣生絲製造業

大同生命保險株式會社
東亞火災相互保險會社

代理店



茂原乾燥所

千葉縣茂原町

店主 林太喜一郎

千葉隅縣夷郡大原驛前

神戶火災海上運送保險株式會社
富士生命保險株式會社

代理店

營業種目
貨物運送取扱
危險担保附取扱
保險代理事務取扱

高橋運送店

店主 高橋義男

電話(〇九)
電話大原局

一般民刑法律事務
迅速懇切に取扱ふ

千葉町吾妻町二丁目

辯護士 藤代市之輔
藤代法律事務所

電話千葉四十七番

流 行 界 之 霸 王

本店 支店 分店

東京日本橋區元大坂町

伊勢重吳服店

佐藤重藏

電話浪花八貳一

千葉縣木更津町田面通

伊勢重吳服店

佐藤仙之助

電話六番

木更津町田面通

伊勢榮商店

林榮太郎

東郷正宗
天狗正宗
金線サイダ

元賣發
賣販手一縣葉千

千葉縣君津郡木更津町

和洋酒類
醬油商

川要商店

電話木更津(五番)
電信略號(カワヨ)

川要商店

製造元

發賣元

千葉縣豐岡村吉岡煉乳所

千葉縣木更津町

內務省御試驗濟

商標 麒麟印練乳

內務省東京衛生試驗所に於ける本品定量
分析の結果左の如し

脂肪	壹〇、貳五貳
蛋白質	九、貳七五
乳糖	壹參、六〇〇
蔗糖	四〇、參〇六
水分	貳四、七壹五
礦質物(灰分)	壹、八五貳

登録商標

精酒釀造
銘酒松録

千葉縣長生郡西村
松野三源治

發賣元 松野支店

千葉縣茂原町上茂原

洋物類各種販賣
足袋製造所

大竹屋足袋店
店主 大塚 邦 彬

安くて丈夫な足袋は

油 醬 上 長



千葉縣長生郡西村 桐谷庄三郎

(東京振替口座一〇一〇四番)

原料精選品質最良

經濟と嗜好と調理に通ず

上總茂原町

桐谷支店

安くて早くて親切の

印刷所はどこか

然り茂原角半活版所

茂原町本一

千葉清

言

弊店事多年御印章彫刻ゴム印製造ニ従事仕リ幸ヒ益々事業ノ基礎ヲ堅フシタルハ偏ニ江湖ノ御庇蔭ニ外ナラズト難有奉鳴謝候就テハ今後益々奮勵シテ只管顧客ノ御厚志ニ背カザラン事ヲ期シ可申候間何卒四方諸君遠近ニ拘ハラズ御用命ノ程奉願候敬白



弊店製造ノゴム印ハ南米産最上ゴムヲ撰ミ完全ナル機械ト多年ノ經驗トラ以テ製スルモノニシテ如何ニ細密ナル書畫ト雖モ其筆法ヲ損ズル事ナシ永年使用シテゴム質ノ變化

或ハ印面ノ磨滅等ヲ來スコトナシ

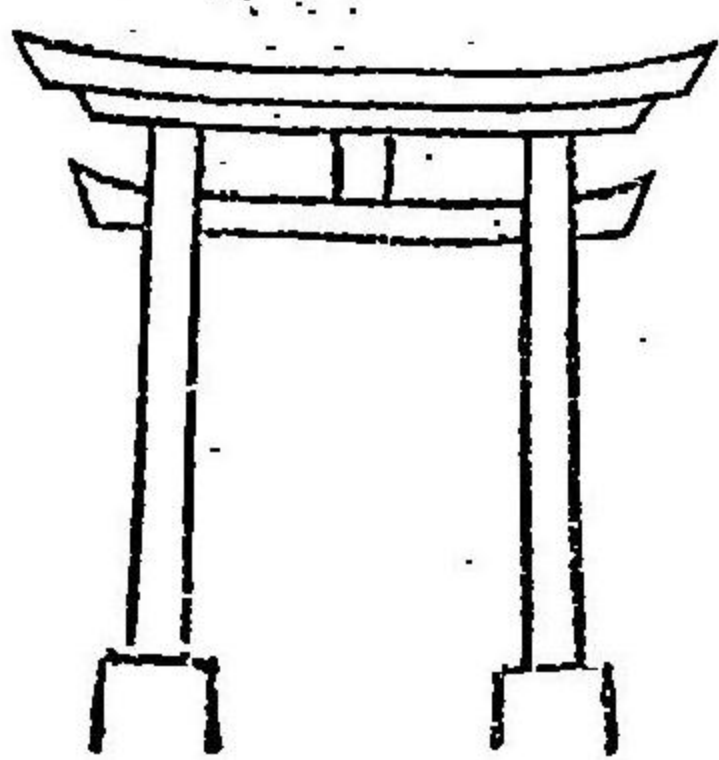
千葉縣長生郡茂原町登記所前

茂原有章堂印舖

高坂轉

水晶印象刻
御印章板木彫刻
ゴム印製造
高等印肉類

商標



安生丹

をうたん。ごうき。いき切。胸に苦痛を覺ゆ。産前産後の病患。水氣。顔色蒼白く。爪白く枯れ又はうすくなり諸病後肥立悪くぶらくと患ふ人に用ふれば血行を整へせうきを鎮め体力を増すこと確也

千葉縣長生郡茂原町
本舖 鳥居成章堂

電話七〇分金廿錢全換無換料

日本全國ごこの藥店にも販賣す
なければ御注文次第御送ります
偽物注意



千葉縣長生郡茂原町

株式會社 日吉銀行

振替貯金口座(東京五壹四八番)

電話略(一〇七)

上總大原町

大原病院

院長中村彌一郎診察は午
前八時より十二時迄
但し急患者は此限に非
ず入院隨時

旅館料理

千葉町

梅松屋

電話千葉五六番

同別荘

電話千葉六八番

千葉町

茂原町本町



安川時計店

●營業品目

最新輸入品着荷
貴金屬指輪寶石
内外時計販賣_並修繕

海產物鯉節煮干製造
荒物乾物其他品々販賣

上總國大原町

原田商店

店主 原田千太郎

茂原町本町一丁目

御料

料理旅館

武田樓

◎旅館は新築落成
◎料理は精撰低廉

夷隅郡勝浦町
株式會社 勝浦商業銀行

頭取 引田國松
事務長 數見繁藏
專務取締役 保崎治郎
取締役 吉野盛
同 岩瀬長四郎
同 齋藤豐吉

海運物品

書籍雜誌

繪葉書製造

寫真撮影

運動文具

學校用品

四十年各種日記

茂原松本店
松本順一郎

清酒 日進 伊藤權右衛門吟釀

全 伊藤正宗 宮崎庄市郎全

全 吉慶鯉 宮崎灘支店全

全 勝田嶋本店全

專賣元 永嶋商店

千葉縣木更津町仲町

(電話八番)

夷隅郡清海村

房總水產株式會社

專務取締役 森為吉

常務取締役 安西直一

取締役 池田平藏

同 日方莊吉

同 石井長兵衛

同 高梨三郎

同 數見百藏

同 岩瀬定吉

同 他沃度及食鹽、鹽化加里其

同 海產物ノ製造及賣買

同 專用漁業權ノ貸借並ニ

同 其漁業權ノ行使

同 前各項ニ關聯スル原料

本會ノ營業

銘

長生郡本納町
釀造元 三相京定吉
長生印

酒

長生郡茂原町
酒類問屋 全相京治作

各種時計 卸小賣商

山武郡大網町本町

蓄音器及
眼鏡洋品

小川時計店

嶄新なる

美術寫真

小川寫真部

撮影

業務擴張

活版

版

印

刷

◎總て活版印刷物の依頼に應ず
工場は千葉縣茂原町森川町角

千葉縣 茂原町 齋藤活版所

所主 齋藤仁之助

◎意匠嶄新期日正確印刷鮮明な
る事は既に各位の知る處なり

銘酒

賜優等賞銀盃

辰泉

銘酒

名聲轟四海

釀造元 日下辰藏

長生郡茂原町

桐屋號

長生郡長南町

桐屋支店

夷隅郡大多喜町

桐屋支店

理化器械各國自轉車

博物標本運動具樂器

實用新案登録電車模型

自金拾五圓
至金廿五圓

上總茂原本町

南輪商會

旅館

◎諸事注意を旨として待遇仕り候

房總線茂原驛前

鶴岡旅館部

官 鹽 元捌米穀薪炭、
 材木、肥料、澆物
 紐膏スタンダード才 商
 イル會社石油代理店

千葉縣 木更津町
國 地 曳 國 太 郎

特電話九番電略號(チタ)又ハチ
 振替 口 座(二二三八番)

酒類醬油并ニ
 洋酒類販賣
 千葉縣木更津町新宿
合 岩 崎 賢 三
 電話木更津四十七番特

○皆様方ノ衣服問題ノ解決○

衣服ハ人物ヲ作ラント云フ事ハ尤モ至極デ有マスガ人ハ衣粧ヲ
 凝ラス時ハ大ニ人品ヲ高メル者デ有マス故ニ當店ハ皆様方職
 業ニ適當シ且ツ流行ニ後レルヌウ新柄ヲ撰ビマス、他ノ事ハ同
 様デ有テモ被服ニ注意スル人ハセヌヨリモ遙ニ便利ナル事ガ
 有モノデスガ如何ニ新柄ヲ御見立セヌヨリモ裁縫ノ技術ガ優レ
 ラ合格ハ云クニ及バズ少シモ人品ヲ高クスル事ガ裁縫ノ技術ガ優レ
 假令柄ガヨクナクモ又ハ品ガヨクナクモ裁縫ノ技術ガ優レ
 テ居ル人ガ作リマシタモノハ必ず格好工巧ニテ着用ノ人ノ品モ高
 ク見レルニ相違アリマセン、故ニ當店工場ニテ使用ノ職工ハ皆
 技術優レルヲ初メテ雇フ格好ノ衣服ガ出来ルモ縫方ニモ注意シ
 方一致シテ御流行ノ物ヲ作ルト思マスガ併シテ他ノ賞賛ヲ得
 ニテモ同様御方ハ是非木更津郵便局前ノ鈴木洋服店へ御注文
 ヲウトスル第一デス

木 更 津 町
 鈴 木 義 雄 商 店

砂糖茶園
 紙鯉節園
 問濱田屋善助
 千葉木更津町本町
 特電話二二三番
 電器(ヤス)又ハ(イ)

山武郡大網町
 確實 近 江 屋
 旅 館

兔肉 元祖 金坂兔店
 千葉縣茂原町農學校前

各國自轉車並ニ
 附屬品一式販賣
 千葉縣夷隅郡勝浦町
 鶴岡自轉車店

夷隅郡勝浦町
旅 館 一 文 字 屋
 確實 勉強 室内清潔

大日本麥酒株式會社特約店
 日本火災保險株式會社代理店
 共同火災保險株式會社

千葉縣木更津町
 酒類醬油問屋
東山星商店
 電話三十五番
 振替口座東二〇〇九四番

全南町
西山星商店

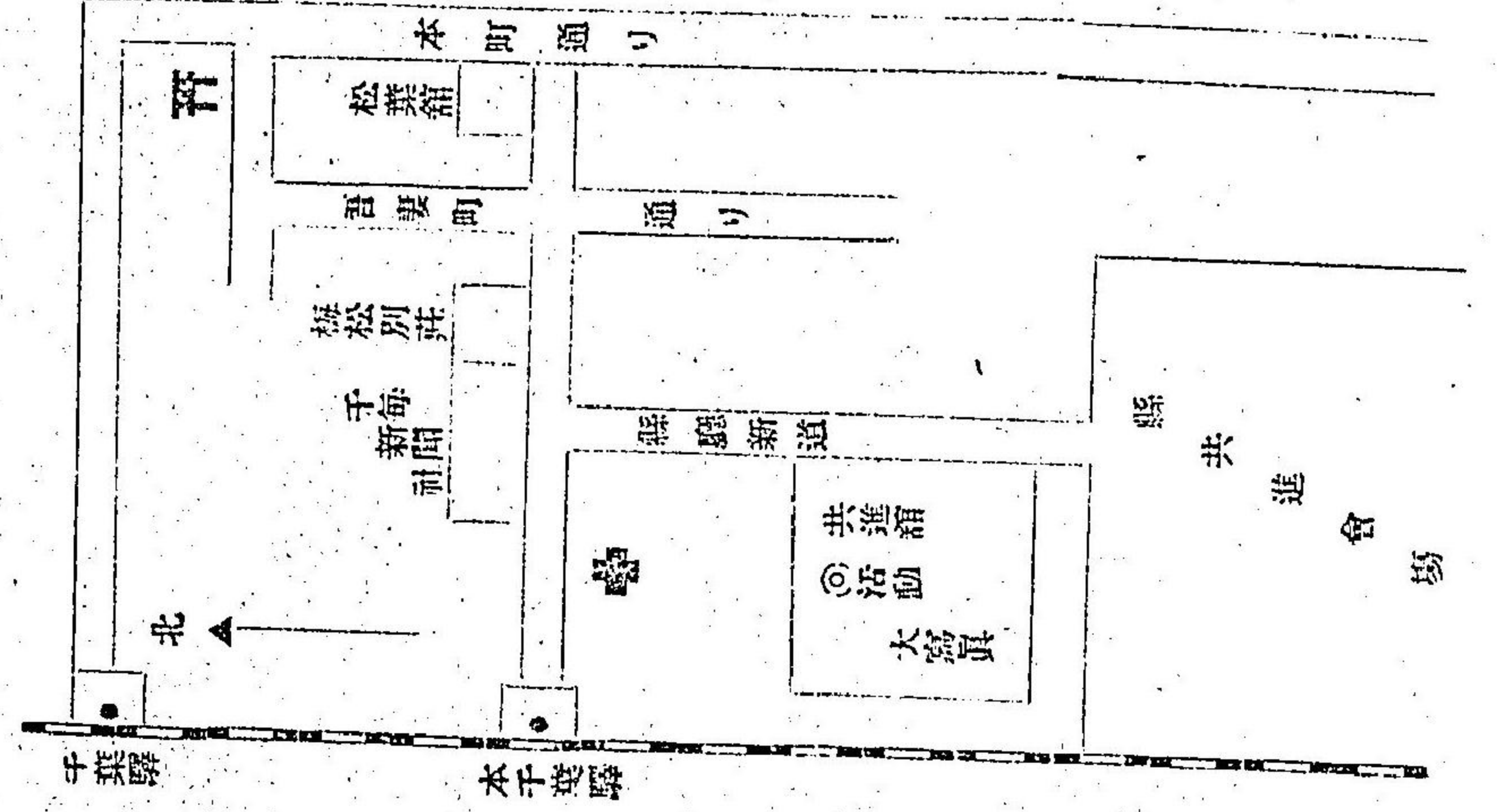
其他各國清酒醬油洋酒罐詰類

- 一 勝利紋 攝州西ノ宮
 清酒良山 釀造元 西辰馬本家吟釀
- 一 星山紋 攝州魚崎
 正宗全 西倉本社全
- 一 金盃紋 伊勢國一ノ宮
 星山全 北川萬右衛門全
- 一 純良粕取 大德耐燒全 三重酒類會社全
- 一 最上將全 千葉縣流山町 堀切本家全

上總木更津町新宿
宗泉堂菓子舖

御餅菓子製造
 和洋菓子
 掛物品々

大割活動大寫真案內



最新奇拔活動大寫真

入場料 大人六錢 小學生 四錢
 中錢ヲ不要

場所 縣廳新道共進館

鳴物假聲入

- 一 新派演劇各種 本郷座俳優
- 一 舊派時代物各種 歌舞伎座青年俳優
- 一 喜劇 數番
- 一 歐米珍奇長尺毛ノ 數十種

明治四十四年五月五日ヨリ共進會ニ付晝夜開場

旅館
御料理

千葉縣 姉崎町

丁子屋

御旅館 山徳旅館

千葉縣 久留里町

店主 山田 徳次郎

本館ノ特色ハ親切ト丁寧

和洋菓子
問屋卸
(門專物打)

上總木更津町貝淵

森山米吉

電略(モリ)又ハ(モ)

技術の精巧と印刷の鮮明とは本堂の特色として世評あり彫刻の緻密と和文の正確と意匠の嶄新に加ふるに價格の低廉なることも亦本堂の特色として世既に定評ある

千葉縣木更津町田面道

高木印刷所

高木竹堂

酒樽油ペーパー各種印刷専門彫刻及製造

夷隅郡大原町

岩瀬時計店

各國自轉車販賣
并修繕時計各種
附屬品販賣並修繕

長生郡茂原町

田中運送店

千葉縣 夷隅郡大原町仲町

和洋菓子
製造販賣

大 美 屋

足袋製造卸問屋
コール天足袋、跣足袋
並ニ荒物疊表類

市原郡鶴舞町
池田屋號

舎 安川商店
全雜貨部

南總勝景繪端書發行所
荒物雜貨商
金物類一式商

千葉縣夷隅郡大原町

△ 渡邊金之助
市原屋號

千葉縣大原町鹽田浦

御海水浴

旅 大原館

館 藤枝正之助

千葉縣大原町鹽田浦

海水浴

御旅館

翠松館

◎新築の客室は清潔で又四季の眺望もよ

し袖師ヶ浦の歸帆を眼の下に集め、遠くは東京灣から横濱港頭まで見晴らす處は、忽にして御病客の心神を爽快ならしめます

◎御賄も御辨當も原料を撰び専ら衛生を旨とし、代金は精衛々勉強いたし、其上御取扱は親切にし決して御粗末は申上ませぬ

御下宿 千葉縣立病院前
御辨當 中 嶋 屋

千葉縣夷隅郡大原町

強勉旅館

綿屋

千葉監獄前

元 差入店 松井 夕ツ

◎御用の節は郵便爲替を以て仰付被下度候

於第一回神港食糧品競技會有功二等賞受領
於帝國產業博覽會三等賞銅牌受領

衛生
高等
飲料

日東印サイダー

千葉縣東金町

ラムネサイダー製造元東水舎

鳴崎商店

電略(シマ)又(ヨ)

右受賞祝意ノ爲今回大割引ニテ特
實仕候間多少ニ不拘御注文願上候
特約販賣希望ノ御方ニハ別テ商議
可仕候

追テ御進物用トシテ壹打、半打入小箱モ御座候

外用大野皮膚病パスタ(有ゆる種類の皮膚病に唯
一回の塗擦を以て全治す)

調經丸(新方月花さらる)

月經を調へ數年の久しき閉止も一二週分を服すれば必ず流下す

一名法目たんのくすり

家傳 青黃丸

顯効如神

効能 胃病たん一切。婦人産前産後。十二肢腸其他凡て貧血
諸症の特効藥

上總本納町法目

調劑本舖 大野直茂

取次店 縣下各藥舖

東京兩國ヨリ直行四時

大原停車場ヨリ八丁

夏涼冬温ノ地

風景雄大ニシテ

宛然舞子ノ濱

大原鹽田浦

海水浴
元祖

松濤館

千葉縣夷隅郡大原町

小濱海浴

御旅館

帆萬千館

旅館 御料理

千葉縣姊崎町

大黒屋

季節向新柄取揃申上候間
不相變多々御用向奉願候

千葉縣木更津町



濱田屋吳服店

電話貳拾貳番

店主 梶 傳次郎

清

吉壹等賞受領

千葉縣品評會ニ於テ

千葉縣久留里町

酒 壽 釀造元 吉崎 紋造

甲種大藥商、日本生命保險會社代理店
藥品、衛生材料、染料品
賣藥一式販賣

金田屋藥廬

電話(木更津二十七番)

千葉縣木更津町本町
洋品雜貨一式販賣

金田屋洋品店

電話(二十七番)

上總木更津町仲町

桔梗屋藥局

電話三九番

藥學得業士 齋田 順

仁壽生命保險合資會社木更津代理店

旅館 御料理

千葉縣木更津町

松川樓

電話(十五)番

店主 露崎 さ せ

内科 小兒科

千葉町院内停車場通

内田醫院

(電話千葉一三五番)

院長 内田 實
副院長 中谷 基

パン類各種製造卸小賣

千葉本町一丁目

木村屋

下總成田町 萬年堂

電話成田四〇番

千葉縣名産貝せんべい

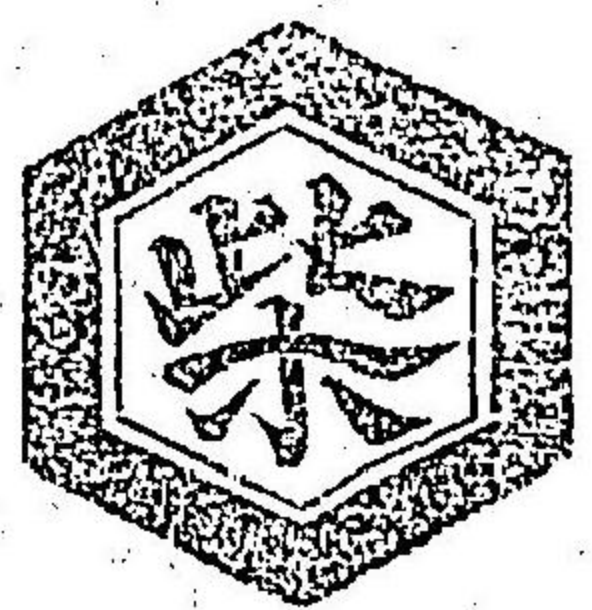
特約販賣店

全病院阪下	千葉市場	千葉本三	千葉停車場前	佐原町	佐倉驛内	佐倉町	船橋町	宗吾門前
田中屋	永壽堂	龜井堂	東屋	相京馬之助	石田商店	木村屋支店	川奈部菓子舖	大木商店

東 京 木 村 屋 支 店
製 造 元 千 葉 本 町 一 丁 目

領授牌賞功有國外内

油 醬 上 最



バ シ ウ コ ツ キ
縣 葉 千
葉 千

造 釀 衛 兵 仁 田 柴

原料精選品質良好ナリ

價格ハ廉ナリ需用者ノ便ナルヲ主トス

薪 米 穀
炭 仲 買 商

千葉縣千葉町
吾妻町二丁目

大 森 源 治 郎

(電話千葉二一六番)

茨城縣特産繼目無し巻紙
其他半紙格安品各種
巻紙は御進物用美術箱入も有之候

製造元 茨城縣太田町
竹内製紙場
一手販賣 香取郡佐原町
吉永政七

内科 診療
外科

入院隨意 下總佐原町
山野醫院
院主 山野庄介

鬼印コール天足袋 特約販賣
千葉名物貝せん餅

香取郡佐原町
相京新聞店

處方調劑所 千葉縣山武郡東金町
岸本藥舖
藥種賣藥染料化粧品氷商

足袋洋物類 茂原町本町
卸小賣商 宮崎榮作

パン菓子 千葉本町三新官宅
洋菓子販賣 龜井堂

海産物 千葉縣茂原町
掛菓子 武田武藏
玩弄物 武田武藏
學校用品
雜貨

東京市麴町區八重洲町

壹丁目壹番地

合資會社櫻組

電話本局(長三一六四番)

全浦邊商會





京都錦小路新町西八

本店 **京** 奈良瓦屋服店

仕入部

千葉縣佐原町

千葉縣佐倉町

千葉縣千葉町

東京日有橋

田所町香地

全

全出張店

全

支店

東京市
目黒區
香地
重洲
町

合資會社櫻組

全浦地商會

303
361

明治四十四年五月十五日印刷
明治四十四年五月二十日發行

(正價金十錢)

發行人 中 臺 誠 吾

千葉縣千葉町千葉
千六百十二番地

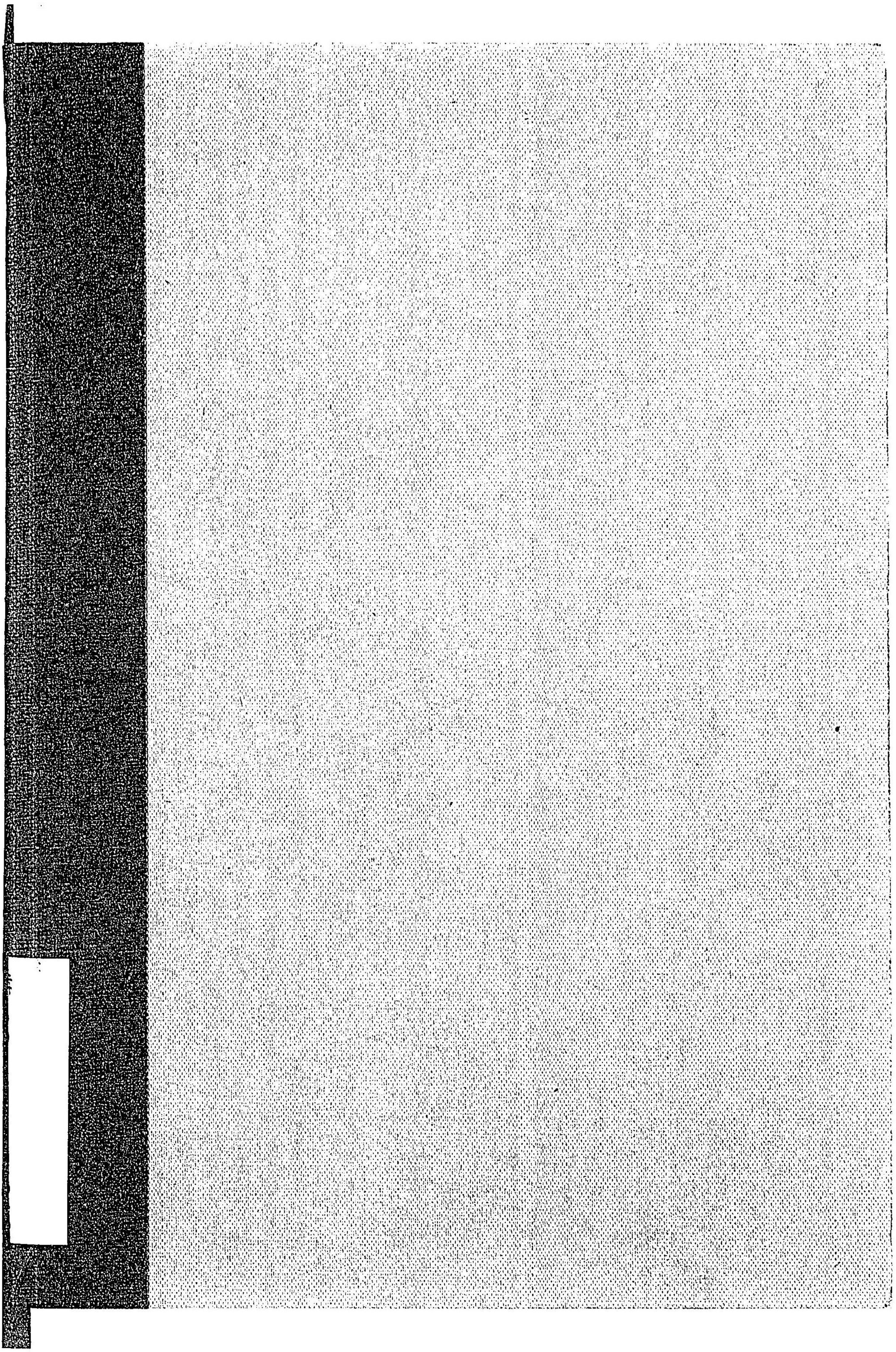
印刷人 岩 倉 順 造

千葉縣千葉町千葉
本町五四八番地

印刷所 多田屋
印刷工場 千葉 活 版 所

千葉縣千葉町千葉
五四八番地(電話一五〇番)





14

特69

312

千葉県共進会実業家案内

国立国会図書館

204275-000-6

特69-312

千葉県共進会実業家案内

中台誠吾

M44.

EDQ-0073

